

	名古屋大学農学部 同窓会報	発行所	名古屋大学農学部同窓会 名古屋市千種区不老町 http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/
	セコイア通信	編集人	吉田正人・村瀬 潤
		発行人	服部 重昭
		印刷所	株式会社 クイックス

「ご挨拶と近況報告」

名古屋大学農学部同窓会 名誉会長・同窓会長 服部重昭
(農学部長・大学院生命農学研究科長)



農学部同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお慶び申し上げます。また、常日頃から農学部および大学院生命農学研究科の教育・研究活動にご理解とご支援をいただき、心からお礼申し上げます。今年度から農学部同窓会長に加えて、名誉会長も務めさせていただいております。したがって、これまでの会報「セコイア通信」の誌面構成とは少し異なり、ここでは、二つの役職からのご挨拶とともに、名古屋大学と農学部・生命農学研究科および農学部同窓会活動の近況をあわせてご報告させていただきます。

会員の皆様もご存知のように、名古屋大学の関係者である、益川敏英先生と小林 誠先生がノーベル物理学賞を、下村 脩先生がノーベル化学賞を受賞されました。まさに名古屋大学の快挙であり、私たちも心から嬉しく思います。先生方の受賞から、基礎科学の大切さおよび名古屋大学の自由闊達な学風の素晴らしさを改めて痛感いたしました。これを機に、名古屋大学における教育研究の一層の発展への期待がさらに大きく膨らんでいます。現在、豊田講堂2階展示室では3人の先生方の業績等をノーベル賞受賞記念展示として2009年3月31日まで、また、名古屋大学博物館では受賞記念特別展として2009年3月28日まで公開しております。機会を作ってください、是非ご覧いただきたいと思っております。

現在の平野眞一総長の任期が2009年3月で満了になるに伴い、総長選挙が行われ、名古屋大学総長選考会議は次期総長候補者として医学研究科の濱口道成先生を選出いたしました。2009年4月からは新しい総長の下に大学の運営が行われます。それにあわせて、教育、研究、社会貢献、管理運営など大学運営の根幹

をなす、新しい中期目標、中期計画の策定が進められています。2010年4月から始まる法人化第2期に向かって、準備が進んでいます。

さて、農学部・生命農学研究科でも、この1年間にいろいろな変化がありました。その一つは、研究科の附属施設である農場、演習林および山地畜産実験実習施設は統合され、生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センターとして改編されます。3附属施設は農学部・生命農学研究科の教育、研究の実践の場として、また大学と地域社会との連携促進の拠点として多大な貢献をしてみりました。これまでの多様な実績を基盤としながら、この再編により、施設間の分野横断的連携の強化、フィールドにおける教育・研究の支援体制の高度化、組織の運営管理の弾力化などを図り、新たな教育・研究の企画、展開や社会からの様々な要請に応えることを目指しています。本センターには森林科学、植物生産科学および動物生産科学の3部門が位置付けられ、生命農学研究科等と密接に連携、協力して一体的に運営されます。なお、本センターは2009年4月1日に発足いたします。

平成19年度の大学機関別認証評価に続き、平成20年度は大学評価・学位授与機構による法人評価を受けました。ここでは大学が掲げている1期6年間の中期目標・中期計画における、これまでの4年間の達成状況が評価されました。加えて、部局つまり農学部と生命農学研究科の教育、研究の実績も評価対象となりますので、部局から提出した教育・研究に関する現況調査表(自己評価書)による書面審査と審査チームによる訪問調査が行われました。この評価は部局の教育・研究の水準や質の改善、向上を目的とするものであり、

教員が教育研究活動を個々に自己点検するとともに、組織的にも見直しを行うことを通して、社会への貢献や説明責任を果たすことに繋げるものです。評価結果はこれから出ますが、それらを踏まえながら、多様性に富んだ、求心力のある教育研究拠点の形成や国際的に通用する人材育成などを見据えて、次期の農学部・生命農学研究科の教育・研究の目標や方針を魅力あるものにしていきたいと考えます。

また、生命農学研究科の教育研究の新たな展開として、2008年10月に研究科は(独)理化学研究所植物科学研究センターとの連携講座として、4研究分野で構成される生命機能システム学講座を設置いたしました。大学院生は植物科学研究センターにおける目的指向型の研究環境の中で、先端的の施設・機器・情報技術を活用しながら研究指導を受けることにより、研究科では手薄な研究分野への進出も可能になりました。今後、大学院における教育の拡充とともに、相互の情報交換や研究協力の強化により新規の研究領域の開拓へと発展することを目指しています。詳細につきましては農学部・生命農学研究科のホームページに掲載しております。なお、農学部・生命農学研究科のホームページが大幅に改定され、内容は読みやすく洗練させたものになりましたので、是非ご覧いただきたいと思っております。(http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/)

さて、ここからは農学部同窓会活動の近況についてご報告いたします。今年で農学部同窓会長をお引き受けして2年目になります。今年度も昨年6月の総会でご承認いただいた事業計画に沿って、会報「セコイア通信」の発行、3月の卒業祝賀会、さらには総会や第5回卒業50周年記念祝賀会などの準備を進めています。また、ホームページの管理とともに、来年度発行予定の同窓会会員録の作成作業も会員の皆様のご支援とご協力により順調に進行しています。夏頃には新しい会員録が完成し、会員相互の情報交換のための連絡網などとしてご利用いただけるものと思っております。

農学部同窓会の会員は現在およそ12,000名を数え、会員数は毎年増加しております。同窓会の活動もそれ

に応じて活発化することが期待されますが、なかなか難しいのが現状です。同窓会の事業への直接的な参加は容易でないかもしれませんが、農学部・生命農学研究科を思う気持ちに大きな違いはないと考えています。同窓会会員であるという意識を持つため、大学を卒業あるいは修了して社会に出てからではなく、学生時代にも同窓会への関心や活動への参加をもっと促すこと、同窓会と研究分野・講座で作っておられるネットワークとの接続強化なども一つの方法かと思えます。いずれにしろ、同窓会とのつながりに対する会員意識を高める工夫や取組みが求められるところです。会員参加型の同窓会活動の拡大に向けてのご意見をいただければ幸いです。

昨年10月18日に2008年度(第4回目)のホームカミングデイが開催されました。今年度のテーマは「人と地球環境」で、全学及び各部局において多彩なイベントなどが行われました。農学部・生命農学研究科はテーマ展示、農作物の販売、サイエンスショーへの協力および保護者企画として保護者を対象とした見学懇談会を実施いたしました。毎年、保護者の方の参加は多いのですが、卒業生、修了生、教職員OBの参加はかばしくありません。会員の皆様にはホームカミングデイそのものが周知されていないのかもしれませんが、農学部・生命農学研究科との協力体制について今一度考える必要があると思えます。とくに平成21年度は名古屋大学創立70周年(創基138年)に当たりますので、これまでより規模を大きくして行われます。そのため、同窓会の積極的な協力が求められています。農学部・生命農学研究科の教育研究の発展、社会貢献、成果の発信などの観点を踏まえた、農学部同窓会らしいホームカミングデイへの協力、これからの同窓会の事業のあり方を議論する良い機会になればと考えます。

農学部同窓会の活動に対してお気づきの点などを積極的にお寄せいただくようお願いいたしますとともに、会員の皆様のますますのご発展を祈念し、ご挨拶と近況報告とさせていただきます。

平成21年度名古屋大学農学部同窓会 総会、講演会、懇親会のご案内

農学部同窓会総会、講演会、懇親会を下記の日程で開催します。みなさまお誘い合わせの上、ふるってご参加下さい。講演会、懇親会のみ参加も歓迎いたします。

○期 日：平成21年6月6日(土) *名大祭期間中*

○総 会

時間：午後2時～3時

場所：名古屋大学農学部 第3講義室

○講演会

住友化学株式会社 農業化学部門主幹

伊藤 高明 氏 一第17回(昭和46年3月)農学科卒一

「マラリア対策用オリセットネットについて」

時間：午後3時～4時

場所：名古屋大学農学部 第3講義室

○懇親会

時間：午後4時30分～6時30分

場所：名古屋大学内レストラン花の木

会費：1,000円

同窓会を開きませんか!?

農学部同窓会総会を機に、久しぶりに農学部に集まって同窓会を開催しませんか? 農学部同窓会の懇親会を1次会としてご利用いただくことができます。是非、同窓会事務局 (dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp) まで事前にご連絡下さい。必要に応じて、同窓会ホームページを掲示板としてご利用頂くこともできます。

わたくしの財産

食糧生産管理学 竹谷裕之

名古屋大学では学生時代を含め、45年を過ごしました。この間、本当に多くの方々を知り合い、お世話になりました。この場を借りて感謝申し上げます。

学部生時代、クラスでよくコンパを兼ね合宿し、人生や学問、社会について何時間も語り合ったことを懐かしく思い出します。先生に時間をもらってクラス討論をしたり、クラスが機能していて、いろいろなタイプの人と知り合えたことは自分の成長にとって本当に重要な時期でした。トルストイ、ゲーリキー、舟山薫らの小説、ヘーゲル、マルクス、武谷三男らの哲学、経済学、科学論などを夜も忘れて読みふけたこと、名大祭本部委員として広告取りから他の大学祭を観ながらの企画作りに奔走した日々、沖縄返還デモや平和行進など、時代の只中で自由な学生生活を送れたことが遅ればせの自我形成に結びつきました。嚶名寮で先

輩Mが「自分史は時代の中で作られる」と語ってくれた言葉は今もよく思い出します。

学位論文は、研究に立ち向かう視点とスタイルを学ぶ機会となりました。隣の研究室の先輩Mは研究活動を「灰色の研究・緑の理論」と表現していましたが、実証研究に取り組む際によく思い返す言葉です。私の学位論文は、工業化・都市化に伴い農業・農民がどう変わっていくか、その変化の意味とメカニズムを併せ解明することが課題でした。名古屋市近郊市町の160戸を超える農家を一軒一軒訪問して調査を進め、清洲町では1ヶ月近く役場に通って資料を手写するなど、データ収集は灰色の活動でしたが、それらデータを解析し思索を重ねる作業は楽しいものでした。新た



な知見を見出した時は「緑」を感じ、資本論フランス語版序文の「峻岨な山を厭わずに登るもののみが」のフレーズを思い出しました。研究生活の中では国内外の実に多くの方々インタビューしました。その折り、「どうしたらいいね」という問いをよく受け、私の研究のモチベーションとなりました。

農国センターづくりでも多くの経験を積みました。山下興亜先生と農学部に進む道としてホモサイエンスか、ヘテロサイエンスか、議論をしたことが思い返されますが、農学部はネーチャーやサイエンスで競争できる人づくりを出口とするだけでは立ちゆかない。もう一つ、食料・農業・環境問題を世界の現場で解決で

きる人づくりを出口にする必要があるとの認識を得たことは、現在のキャリアパス事業導入などからも大事な議論であったと思いますし、農国センターづくりへの協力を要請された時、決心する基盤になりました。一人でナミビアやケニアの文科省・農水省へ出掛け話すことになるとは予想しませんでした。日本の文科省、JICA、JIRCASなど、これも多くの方々と連携して取り組めたことは、知人を得、視野の広がり、課題への向き合い方等、今日の私の財産となっています。

今後は、わたくしの財産を社会的財産にするため、務めたいと考えるこの頃です。

定年退職を迎えて

植物遺伝育種学 服部 一三

名古屋大学に入学して45年、助手になって35年、これまで長い間多くの人たちに支えられ、平成21年3月で定年退職となります。大学に入学して4年生になったときに講座配属が決まり、栽培原論及び育種学講座（現在の植物遺伝育種学研究分野）で卒論研究を行うことになりました。その当時は1講座の中に2つの分野が存在するという異例の講座で、栽培系・育種系と分かれて指導教官に付く方式で卒論研究がはじまりました。そのころの農学部の風潮として「イネ」を実験材料として使うことが当たり前といわれていましたが、小生はこれが嫌で、放射線照射により花色が可逆的に変異するキクの系統を入手し実験を開始しました。色素分析法やキクの観察を続け、何とか卒論をまとめることができ、大学院修士課程に進学し、同じような研究を継続し、赤色花と黄色花のカロテノイド色素のバンドパターンに変異のあることを見つけ、修士論文をまとめました。博士課程に入り、いよいよ遺伝子分析を行おうとしたのです。キクは自家不和合性が強く働くため、種子を得ることができませんでした。そんな頃アメリカ・オランダから逆輸入された‘スプレイマムと呼ばれる一群の品種群が交配育種をしていることを知り、この群に属する品種を約200品種集め、交配に取り掛かったのはすでに博士課程3年を過ぎてからでした。この仕事をはじめたときは、幸運にも、助手に採用されていたので、学生の面倒を見ながら、交配法の開発やら、栽培試験を繰り返していました。裁

培キクは同質性の高い6倍体植物であり、複雑な分離比が予想されましたが、案外単純な分離比で、説明することができた。しかし、ここで得られた結果を理解するためには、植物体のキメラ性を考慮に入れることが必要であり、このキメラ性を打破する必要が出ました。そのために、植物組織培養を行うことになり、単細胞起源と思われる植物体の再生に成功しました。この頃になるとおもに東南アジアからの留学生が多くなり、手っ取り早い実験として、組織培養を行うものが多くなり、様々な植物種を用いて培養から植物体再分化までを一連の流れとして理解できるようになりました。その後、キク、イネ、リョククトウ、アズキ、ソラマメ、ペチュニア、ケナフ、ヒョウタン等を供試して、再分化系を確立し、形質転換体の作出などを行い現在に至っています。このようなことを行ってきた中で、自分の考えた実験の流れを進めて来られたことが小生のつたない研究生生活を支えてきたものと確信しています。これからの大学には、厳しい状況が続いていくものと思われそうですが、自分自身の考えを持ち、特に農学部・生命農学研究科のような応用を目指した場面では、自分の出口を切り開いていってほしいと思います。そうすることで、自ずと、方向性も定まり、実りある研究生生活を送ることができるものと確信します。



遍歴45年の節目に

附属鳥類バイオサイエンス研究センター・応用遺伝・生理学講座(兼任) 並河 鷹夫

農学部・大学院生命農学研究科同窓の皆様、いかがお過ごしでしょうか。明るい話題ばかりの社会、世界の状況ではありませんが、御奮闘、活躍のことと拝察します。私は入学以来の45年間、名古屋大学でお世話になりました。そのせいか、定年というよりも、「寛大な“可”」を一杯戴いて、45年課程を修了するというのが実感です。同窓会からは農学部創立50周年事業などで絶大な支援を戴きましたが、今は新会員のような気分です。この1・2年間、定年間際にはどんなことを思い出すのか、特に意識しないでも何か思い浮かんでくるだろう、それが多分重要なことだったのだろう、などと気楽に想像していました。しかし今、様々なことが次々と断片的に思い出されます。

この「定年欄」のS、H、T先生と共に定年を迎えられることが大変うれしいことの一つです。S先生とは教授会の席が隣同士であったことがありました。ある時、マイクを渡し発言を促したら「ボク、歌っちゃうかもよ」と言われ、笑っちゃうのを堪えました。こんな先生が農学部にもっといたらいいのにと思いました。H、T両先生とは45年間の大学生活を共にして無事卒業できます。一2000年11月9日、沖縄県阿嘉島で海洋天然物の研究材料採集中の不慮の事故でN教授(享年48)を失った。その頃、私は役職にあった。事

後、阿嘉島を訪れ、世話になった研究所、漁協、医院などの方々にお会いした。阿嘉島の景観は美しく、近海が世界有数のサンゴ群生地であることをその時知りました。そして昨年、ノーベル化学賞受賞の下村脩博士に関して私に取材申込みがあった。その記者はN教授の遺児育英基金趣意書から私の名前を見つけ、私が海洋生物学の権威とでも思ったらしい。この取材はN教授が受けている筈でした一。

先達、諸賢の先導のお陰で、45年間のうち、30年間はやりたいことができ、その後15年間はやらなければならないこともささやかながら果たせました。遍歴を自己評価すると、勉強させてもらったことが9、それを糧に貢献できたことが1で、アウトプットが少な過ぎたと思っています。節目に当たり、原点に立ち戻って、遍歴ゴミの再資源化の道を模索しようと思っています。

新たな価値観を醸成する、10年、20年後の人材育成を目指した教育研究環境がとりわけ大切な時代と思います。名古屋大学大学院生命農学研究科・農学部から、日本の、世界の課題に果敢に挑戦する、個性豊かな、勇気ある知識人、リーダーが輩出することを切に期待する昨今です。



森林保護と演習林管理

演習林 柴田 叡 弼

私は1992年10月1日に名古屋大学の門をくぐり演習林教授として農学部へ赴任しました。私にとっては初めての大学勤務でしたので緊張感が強かったように思います。赴任する前に私は公立研究機関に所属していたので大学での生活はすべてが新鮮でした。それから16年6ヶ月が経ち定年退職を迎えることができました。ここまで仕事が遂行できたのは研究室と演習林のスタッフ、また院生や学生の皆様のおかげだと感謝しています。

演習林教員は演習林管理の仕事だけではなく、「森林保護学研究室」で学生や院生を指導する機会も与え

られていました。他大学の演習林教員には演習林管理のみで、学生、院生を指導する機会はありませんでしたが、名古屋大学では森林系教員のご配慮でそれが可能になっていました。そのおかげでたくさんの学生や院生の指導ができたのは幸せでした。私は公立の研究機関で森林保護、具体的には松食い虫や穿孔性昆虫、さらに獣害問題を担当していました。

名大へ赴任してきてからはおもにこの獣害問題を中



心に学生や院生たちと研究してきました。野外調査がきびしくて苦労もしましたが、それなりの成果はあがったと思っています。最近はこうした獣害がほかの生物にあたる影響について興味をもち、研究をすすめてきました。このなかで明らかになった森林での生物間相互作用は生物多様性を守るうえで重要なものであると認識するようになりました。2010年に名古屋で開催される第10回生物多様性条約締約国会議の行方に大変興味をもちています。

演習林の管理では、大きなできごとがいくつかありました。そのひとつは集中豪雨による演習林庁舎の被災です。幸いなことに人的被害は小さく、また森林の被害も少なかったのですが、建物の復旧には多大の労力を要しました。演習林実習を岐阜大学の演習林をお

借りして実施したこともありました。

国立大学が独立法人になったので演習林も民有林となりました。まもなく間伐木の伐採作業中に職員が足を損傷するという事故がありました。民有林になったので、災害保険の適用などで事務方にも随分ご迷惑をおかけしました。民有林化とともに演習林の管理方法もこれから改革しなければならないことが予想され、今後の課題となるでしょう。

農学部では新しい学科が軌道にのり、今までと違った枠組みで研究教育が行われてきています。しかし、学生実習などをみていますと学生の気質も大きく変わってきている気がします。新しい時代に対応した新しい教育研究を期待しています。最後に生命農学研究科ならびに農学部のますますのご発展を祈っています。

普通の生活は幸福なり

全学技術センター（農学部技術部） 木村和子

昭和42年5月に名古屋大学農学部林学科治山工学研究室に就職して、早くも42年が過ぎ定年の年を迎えました。大勢の卒業生を見送りましたが、いよいよ私の番になりました。思い起こせば、楽しく懐かしい思い出ばかりです。同じ年に農学部就職した女の子5人は18歳で元気いっぱいよく「箸が転んでも、笑う」と先生方に言われました。

この5人組は今でも親友です。いつの間にか名古屋大学で定年を迎える事が出来たのは私一人になってしまいました。私は最初教室系事務官として、治山工学研究室の事務を担当していました。研究室の創設者の河田五郎教授が定年になり、片岡順教授の時代に私はちょうど子育ての真っ最中でした。ドングリ保育園の前身名古屋大学共同保育所に長男を入れて、授乳に通ったりしながら育ててきました。その息子も今年父親になります。名古屋大学の働く環境の良さや、先生方・職員の方の理解に支えられて仕事を続ける事が出来ました。その頃から働く環境も次第に変わり、事務だけでなく研究補助や技術支援の仕事が多くなり、昭和55年に文部技官になりました。

研究室の名称も私が入る前に農学部が安城にあった時代は森林工学研究室でした。昭和41年に名古屋市東山地区に移転になり治山工学研究室になり水土保持学研究室、気象水文学研究室へと名称が変わり研究支援内容もその時々に合わせて柔軟に対応してきました。

平成3年に農学部技術部が誕生、一研究分野のみでなく技術部として農学部全体の技術支援を行うように

なりました。定員削減の中、技官の定員は減少していき一人で複数の部門を担当することになり、専門分野を超える化学分析もするようになりました。

平成16年には名古屋大学技術センターが出来、組織上共通基盤支援室情報通信技術系に所属することになりホームページの作成等をしてきました。名古屋大学が国立大学法人化になり5年が過ぎ、時代は刻々と変わっています。最後の年には新学科の生物環境学科学生実験実習を担当し、先生方や3年生の実験実習の支援が出来たことで、若返り新鮮なエネルギーをいただきました。今年度ノーベル賞を3名も出した名古屋大学の卒業生として、誇りと自信と愛に満ちた社会人になれることをお祈りします。

長い間お世話になりました生命農学研究科・農学部のすべての皆様に感謝申し上げます。最後になりましたが、生命農学研究科・農学部同窓会のますますの発展を祈念致します。

定年退職技術職員

今年度はこのほか2名の技術職員の方が定年退職されます。浅野友世さん、木村時政さん。長い間技術支援ありがとうございました。



卒業生の言葉

卒業、思い出がいっぱい

資源生物環境学科森林保護学研究分野 森美香子



私の4年間の大学生活は本当に楽しく充実したものでした。入学当初の仮装行列、大学祭実行委員。みんなで何かを作り上げて行く楽しさや多くの方との出会いは、大学生活というものがよくわからず不安だった私の気持ちを一掃してくれました。そしてこの農学部資源生物環境学科での4年間。私にとってかけがえの無い時間でした。正直なところ4年生で研究室に配属されるまで私はあまり自発的に勉強していたとは言えません。しかし、テスト前に友人達と図書館にこもったことや、協力して行った実験。実験後にアイスを食べながらするたわいもない会話など、何気ないことが本当に大切な時間でした。

3年生でコースが分けられた後は専門的な実習になりましたが、できなくても根気良く指導して下さる先生方、先輩方、全員でお揃いのつなぎを着るような素敵な仲間にも恵まれ、私にとって最高の実習でした。特に夏休みの稲武演習林での実習はここには書ききれないほどの楽しい思い出でいっぱいです。

4年生で研究室に配属された際は、今までと違う感覚に初めは戸惑いましたが、先生方、先輩方は、小さなことでも本当に親身になって相談にのって下さる方ばかりで、安心して研究に取り組むことができました。1年間という短い期間でしたが、先生方、先輩方の姿勢から学ぶことは多かったと思います。また、4年生の3人とは一緒にいることが多く、調査や研究が大変な時とても支えられました。研究室は面白く、毎日学校にくるのが楽しみでした。

私は4月から社会人になります。今よりもっと大変なことが出てくると思いますが、感謝の気持ちを忘れず、人との出会いを大切に頑張っていきたいと思っています。そして自分のやるべきことを楽しんでできるような人になりたいです。

最後になりましたが、多くの方に支えられ、私は幸

せな大学生活を送ることができました。たくさんの素敵な思い出をくれた友人、親身に指導して下さった先生方、先輩方、側で支えてくれた家族に感謝の気持ちでいっぱいです。とても楽しい4年間でした！本当にありがとうございました！

卒業の時を迎えて

応用生物科学科食品機能化学研究分野 大瀧菜月



私の4年間は、新たな経験の連続でした。

知らない街での新しい生活。今当たり前のように生活していることを考えると、成長を感じずにはいられません。最初は何をするにも不安だらけだった私に力を貸してくれたのは、農学部に入って出会った友達でした。生まれや育ちは異なるけれど、毎日会っても飽きない気の合う仲間と共に、たくさんの思い出を作ってきました。

もともと運動が好きな私は部活にも入りました。先輩も後輩も関係ない実力主義の世界。そこでしか得られない悔し涙、嬉し涙。一年生や二年生の頃は勉強もおざなりに部活中心の生活を送っており、試験前はよく友達の助けを借りたものです。名古屋大学は他の大学との交流も多く、多くの人と親交を深めることができました。部活を通して出会った仲間もまた、学部の仲間と同様、この先も大切にしたいと思います。

4年生からは研究室を主軸とした、今までとは一味違う生活となりました。先生方や先輩方の熱い指導のもと、勉強、勉強の毎日です。私は生体内で起こる脂質過酸化に関係する研究を行いました。非常に難しく、研究の奥深さをひしひしと感じると同時に、一つのことに打ち込む毎日にやりがいを感じました。卒業後はこのまま大学院に進学し、研究を続ける予定です。大きな社会に出る前にここで多くの知識や技術を修得し、今後につながる自信をつけたいと思います。

卒業まであっという間でしたが、様々な経験を積み、充実した日々を過ごせたことを嬉しく思います。私は

周囲の人々や環境に大変恵まれていました。共に4年間を駆け抜けてくれた仲間達。勉学面においてだけでなく、人生の先輩として指導して下さった先生方、先輩方。そして、誰よりも私のことを本気で考え、いつも見守り、支え、応援して下さった家族。心より感謝しています。本当にありがとうございました。

修了を迎えるにあたって

生命農学研究 生命技術科学専攻 動物細胞機能研究分野 金戸幸弘



私は学部4年生の時と同じ研究室に進学しました。研究室を選んだ理由はいろいろありますが、一番の決め手は「雰囲気」の良さです。月に一度はみんなで料理（ロシア料理、ポーランド料理?など凝った料理に挑戦!!）を作ったり、お誕生日会を開いたりと様々な楽しいイベントがありました。特に、研究室旅行では多くの場所に足を運び、貴重な体験ができました。先

生も含めた研究室のみんなで夜中まで様々なことを語り合ったことはとても良い思い出です。また、研究科研究室対抗ソフトボール大会では、女性が多いチームであるにもかかわらず強いチームワークによって団結し、昨年度は準優勝、今年度はベスト4という脅威の好成績を残すことができました。和気藹々とした雰囲気の中で楽しい研究室生活を送ることができました。

研究室では、先輩の知識の広さや手際良く実験している姿を見て驚くばかりでした。そこで、多くの論文を読んだり、先輩にアドバイスをもらったりしていく中で、少しずつ新しい実験の提案もできるようになりました。また、セミナーでは発表者に対して一人一質問というルールがあり、初めのうちは質問を考えるだけで精一杯でしたが、疑問に思った点を積極的に質問することで、理解できるようになりました。

研究室では自分で考え、工夫すること、物事をわかりやすく伝えることの大切さを学びました。私はこの4月から食品会社で、社会人としての一步を踏み出します。消費者が魅力的に感じるような商品を創り、食に求められる「おいしさ」と「健康」を見える形にしたいと考えています。そして、責任をもって自分の役割を果たし、社会に貢献したいと思います。

最後に、多くの助言や協力していただいた友人や研究室の皆様、心より感謝いたします。また、御指導いただいた指導教員の皆様に厚く御礼申し上げます。そして、充実した学生生活を送るため精神面や経済面で支えてくれた家族に深く感謝いたします。



平成20年度農学部同窓会 総会、講演会、懇親会、ならびに農学部第4回卒業生および修士第2回卒業生の卒業50周年記念祝賀会の報告

平成20年6月7日（土）、農学部第3講義室に於いて総会を行いました。平成19年度の事業・決算報告を行った後、平成20年度役員を選出し、平成20年度事業計画・予算を審議しました。同窓会会員録を5年ぶりに更新することが承認され、平成21年8月の発行に向



けて作業に入りました。総会終了後、小西千晶氏（株式会社東芝）による講演「電機メーカーが取り組むバイオマス事業－異分野の技術を融合し、新しい市場に挑戦－」を開催しました。講演終了後、シンポジウム内“ユニバーサルクラブ”にて懇親会を開催し親睦を深めました。

同日、名古屋大学農学部大会議室に於いて、農学部第4回卒業生および大学院農学研究科第2回修士卒業生の卒業50周年記念祝賀会を、農学部談話会と共同で開催しました。平成17年に名古屋大学農学部第1期生の卒業50周年を記念して始まったこの祝賀会も3回目を迎え、10名の卒業生と14名の談話会会員、約20名の現職員ならびに同窓会役員が出席して盛大に行われました。祝賀会では、出席いただいた方々からの近況報告に続き、談話会会員の中村良名誉教授（食品製造化学第二研究室、現 分子生体制御学研究分野）による

記念講演「食品とアレルギー」も行われ、互いの旧交を温めておられました。第5回卒業生ならびに大学院第3回修了生の卒業50周年記念祝賀会は平成21年6月6日(土)に開催する予定です。懐かしい先生方にもご参加頂けるかと思しますので、記念祝賀会へのご招待状が届きましたら、万障お繰り合わせの上、ご出席ください。

祝賀会、講演会、懇親会に関する情報は農学部同窓会ホームページに掲載中です。是非ご覧下さい。

農学部第5回卒業生の *卒業50周年記念祝賀会のご案内*

農学部第5回卒業生ならびに大学院農学研究科第3回修了生(昭和34年3月卒業・修了)の皆さんが、平成21年3月に卒業50周年を迎えられます。この良き年を記念して、農学部談話会にもご協力いただき、第5回卒業50周年記念祝賀会を開催いたします。懐かしい先生方にもご参加いただけることと思しますので、記念祝賀会へのご招待状が届きましたら、万障お繰り合わせの上、ご出席ください。

第4回卒業生のみなさんからの寄稿

「第4回卒業50周年記念祝賀会に参加して」

農学科・第4回卒業生 井上忠彦

此度は卒業50周年目の同窓会を開いて戴きまして誠に有難うございました。

安城時代、等しく害虫学教室で卒論に取り組んだ同輩たちは勿論、滝子での教養部時代親しかった友人たちにも会えたのは望外の喜びでした。

また、齋藤哲夫先生を始め、名古屋大学を愛する農学部の先生方や同窓会幹事の御参加を戴き、会を盛り上げて下さったことに感謝いたします。

同窓会幹事の方々には誠に大変なお仕事と存じますが、こうした会がこれからも引き続き開催され、より多くの方々に参加される様になって年を追う毎に盛会となってゆくことを祈念しております。

「第4回卒業50周年記念祝賀会」に参加して

畜産学科・1958年卒業 大島光昭

第4回卒業生として招待される一方、祝賀会を同窓会と共催した、農学部教職員OBを中心に組織された農学部談話会の現世話人という立場から、感想を述べさせていただきます。共催といっても農学部談話会は企画に関わるだけで、実施は同窓会に一任しています。

第1回卒業生が卒後50年を迎えたのを機に「卒業50周年記念祝賀会」を企画された、当時(2005年度)の同窓会および農学部談話会の役員の方々に敬意を表します。以後、第2回、3回と回を重ね、第4回卒業生の私達に順番が巡ってきました。

卒業後50年を生きて現存することを祝っていただいた上、50年ぶりの旧友との再会の機会を作って下さったことに感謝致します。後者の再会については、適当なオーガナイザーがいればいつでも会えたのですが、少なくとも第4回卒業生については、全員が案内をうけるそのような機会がありませんでした。そして卒後50周年を機に、同窓会がオーガナイザーの役割を果たしてくれました。有り難うございました。その上、農芸化学科及び畜産学科の畜産製造学実験のご指導をいただいた中村 良先生による記念講演があり、最

若手教官だった当時のお姿を彷彿しつつ、食品アレルギーのお話を感慨深く拝聴しました。

卒業当時(1958)には農学科11名、林学科10名、畜産学科3名、農芸化学科21名、計45名いた同期生も、この日に配布された名簿で、11名が既に亡くなったことを知りました。卒業後も交流のあった4名以外は、知らぬ内のご逝去でした。あらためてご冥福をお祈り致します。

この日の出席者は10名で、その内訳は農学科4名、畜産学科1名、農芸化学科5名でした。農学科と農芸化学科は出席率が比較的高かったようですが、農学科の場合は害虫学講座の結束に負うところが大きく、農芸化学科は例年、学科の同窓会を開いているとのことで、その賜物でしょう。林学科が0名なのはどうしてでしょう。畜産学科も3名中、私だけの参加に留まりました。

けっして多くはなかったとはいえ、懐かしい顔に会えたことに満足しています。全員72歳以上で、20年もの間(1965・1985)香川に隔離されていた私にとっては、多くが50年振りの再会だったというのに、一見して直ぐ誰だか判りました。私ごとについていえば、前夜アメリカから帰国したばかりで、機中の乾燥で喉をやられて声が十分出なくて喉頭癌と疑われたり、疲れて老け気味の顔を、久しぶりだからこそ、それが日常と思われたのではと残念がっています。また、農学部談話会の世話人として会直後に短時間の世話人会を開催している間に、皆とはぐれてしまったのも残念でした。当然、続いて開催された同窓会講演会、総会、懇親会にも出席すると思っていたのですが甘かったようです。学科別に行動したようで、農学科の4名とは懇親会で会うことができたが、農芸化学科の5名とは会えず仕舞でした。

第5回からは、祝賀会・同窓会総会・懇親会を、一連の行事として案内しては如何でしょうか。そのことにより総会の参加者が増え、懇親会は、祝賀会に参加できなかった後輩達との交歓の場としても活かされると思います。祝賀会は正午からなので、午前中を名大祭会場の散策にあて、若さを吸収するよう勧めるのも一案でしょう。

平成20年度名古屋大学農学部学術交流基金助成事業の採択者一覧

(農学部学術交流基金助成は農学部創立50周年記念事業の一環として行われています。)

○「学術研究の助成」

- ・塚田 光 (助教)
課題等：成長ホルモンのインスリン抵抗性誘導メカニズムの解明

コート形成における機能の解析

- ※第19回国際シロイヌナズナ研究会議参加
- ・中島優子 (動物細胞機能研究分野・博士課程前期2年)
課題等：CMP- [¹⁴C] デアミノノイラミン酸 (KDN) のワンポット酵素合成

○「研究集会の助成」

- ・吉村 徹 (教授)
第4回D-アミノ酸研究会学術講演会

※第6回シアロ糖鎖科学会議参加

○「海外派遣の助成」

- ・佐々 路佳 (生物化学研究分野・博士課程前期2年)
課題等：シロイヌナズナ EXL タンパク質のポレン

○「外国人招へいの助成」

- ・太田 岳史 (教授)
課題等：生物圏-地球システム相互作用に関する特別講義の実施

人事異動 (平成20年1月～12月まで)

生命農学研究科

日付	内容	職名	氏名	備考
H20.3.1	採用	准教授	土井 一行	九州大学大学院農学研究院助教から
〃	〃	助教	水口智江可	
H20.3.31	退職	准教授	飯嶋 盛雄	近畿大農学部教授へ
〃	定年退職	教授	福田 勝洋	
〃	〃	〃	山木 昭平	
〃	〃	〃	磯部 稔	
〃	〃	〃	島田 清司	
〃	〃	助教	大村 百合	
H20.4.1	配置換	助教	岡島 徹也	医学系研究科附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター講師へ
〃	兼務	研究科長	服部 重昭	20.4.1～22.3.31
〃	〃	教育研究評議員	坂神 洋次	20.4.1～21.3.31
〃	兼務解除	〃	服部 重昭	
〃	兼務	副研究科長	坂神 洋次	20.4.1～21.3.31
〃	兼務解除	〃	服部 重昭	
〃	兼務	〃	柘植 尚志	20.4.1～22.3.31
〃	〃	演習林長	太田 岳史	附属演習林 20.4.1～23.3.31
〃	〃	施設長	海老原史樹文	附属山地畜産実験実習施設 〃
〃	〃	センター長	吉村 崇	附属鳥類バイオサイエンス研究センター 〃
〃	〃	専攻長	土川 覚	生物圏資源学専攻 21.3.31まで
〃	〃	〃	中村 研三	生物機構・機能科学専攻 〃
〃	〃	〃	海老原史樹文	応用分子生命科学専攻 〃
〃	〃	〃	松岡 信	生命技術科学専攻 〃
〃	〃	学科長	福島 和彦	生物環境科学科22.3.31まで
〃	〃	〃	川北 一人	資源生物科学科21.3.31まで
〃	兼務解除	〃	海老原史樹文	
〃	昇格	教授	西川 俊夫	准教授から
〃	〃	〃	吉村 崇	〃
〃	採用	助教	兒島 孝明	
〃	兼務	研究科長補佐	前島 正義	21.3.31まで
〃	〃	〃	肘井 直樹	〃
H20.8.1	採用	教授	下村 吉治	名工大大学院工学研究科教授から

生物機能開発利用研究センター

H20.8.1	採用	准教授	上口美弥子	生物センター研究員から
---------	----	-----	-------	-------------

農学国際教育協力研究センター

H20.3.31	任期満了	准教授	杉本 充邦	JICA へ
H20.4.1	採用	〃	伊藤 香純	農国センター研究機関研究員から

農学部同窓会ホームページ案内

祝賀会、講演会、懇親会の模様、農学部研究室の変遷などに関する情報は農学部同窓会ホームページ (<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>) に掲載中です。是非ご覧ください。

平成19年度 事業報告

- 1) 総会、講演会、懇親会の開催
平成19年6月9日、名古屋大学農学部において総会を行った。
総会終了後、加藤 保 氏（愛知県農業総合試験場長）による講演「明日の愛知県農業を拓く、農業総合試験場の実用化研究」を開催した。
講演会終了後、名古屋大学シンポジオン内“ユニバーサルクラブ”にて懇親会を開催し、親睦を深めた。
- 2) 卒業祝賀会の開催
平成20年3月25日に農学部談話室にて卒業祝賀会を開催した。樽酒を飲み交わしながら盛会のうちに終了した。
- 3) 会報「セコイア通信」の発行
平成20年3月に発行した。
- 4) 農学部同窓会50周年記念事業
～卒業50周年記念祝賀会の開催～
平成20年6月7日、名古屋大学農学部大会議室において第4回卒業生の卒業50周年記念祝賀会を農学部談話室と共同で開催した。
- 5) ホームページの作成と管理
同窓会員の情報交換を促進し、活動の状況を広く会員に知ってもらうことを目的に同窓会ホームページの充実をはかった。
- 6) 同窓会名簿の管理
全学同窓会の名簿システムと連携し、名簿の充実と管理について改善に努めた。
- 7) 全学同窓会への協力
全学同窓会幹事会に役員を出し運営に協力した。

平成20年度 事業計画案

- 1) 総会、講演会、懇親会の開催
平成20年6月7日、名古屋大学農学部において総会を行う。
総会終了後、小西 千晶氏（(株)東芝、社会システム社、水・環境システム事業部）による講演「電機メーカーが取り組むバイオマス事業 ～異分野の技術を融合し、新しい市場に挑戦～」を開催する。
講演会終了後、名古屋大学シンポジオン内“ユニバーサルクラブ”にて懇親会を開催する。
- 2) 卒業祝賀会の開催
平成21年3月25日（水）に農学部談話室にて卒業・修了祝賀会を開催する。
- 3) 会報「セコイア通信」の発行
平成21年3月発行予定。
- 4) 卒業50周年記念祝賀会の開催
第5回卒業生の卒業50周年記念祝賀会を開催予定。
- 5) ホームページの作成と管理
同窓会員の情報交換を促進し、活動の状況を広く会員に知ってもらうことを目的に同窓会ホームページの充実をはかる。
- 6) 同窓会名簿の発行および管理
全学同窓会の名簿システムと連携し、名簿の充実と管理について改善に努める。
平成21年度版農学部同窓会会員録の発行について審議する。
- 7) 全学同窓会への協力
全学同窓会幹事会に役員を出し運営に協力する。

名古屋大学同窓会 平成19年度決算

【収入の部】

費 目	金 額 (円)	細 目	金 額 (円)	備 考
会 費 等	2,694,000	永 久 会 費	1,720,000	86名
		一 般 会 費	470,000	94名
		寄 付 金	459,000	71名
		広 告 掲 載 費	45,000	3件
卒業50周年祝賀会・ 談話会会費	86,000			43名
総会懇親会費	50,000			50名
そ の 他	118			利子
前年度繰越金	24,279,612			
合 計	27,109,730			

【支出の部】

費 目	金 額 (円)	細 目	金 額 (円)	備 考
会 報 発 行 費	1,108,056			印刷・発送
総 会	221,103	総会支給交通費	63,000	3名
		懇 親 会	122,770	
		講 演 料	33,333	
		講 演 者 旅 費	2,000	
卒業50周年祝賀会	87,540			
卒 業 祝 賀 会	197,169			
役 員 報 酬	132,000	平成19年度分		11名
支 部 支 援 金	50,315	平成19年度分	50,000	関西支部、関東・遠州未納
		振 込 手 数 料	315	
名 簿 管 理	22,695	デ ー タ 投 入	22,485	
		振 込 手 数 料	210	
アルバイト代	250,000			
郵便振替手数料	28,380			
そ の 他 諸 費 用	109,432	旅 費	27,000	
		課 税 納 付	74,482	講演料、過年度分納付
		そ の 他 事 務 経 費	7,950	
次 年 度 繰 越 金	24,903,040			
合 計	27,109,730			

名古屋大学同窓会 平成20年度予算

【収入の部】

費 目	金 額 (円)	細 目	金 額 (円)	備 考
会 費 等	3,110,000	永 久 会 費	2,400,000	120名
		一 般 会 費	500,000	100名
		寄 付 金	150,000	30名
		広 告 掲 載 費	60,000	4件
卒業50周年祝賀会・談話会会費	50,000			25名
総会懇親会費	50,000			50名
そ の 他	100			利子等
前 年 度 繰 越 金	24,903,040			
合 計	28,113,140			

【支出の部】

費 目	金 額 (円)	細 目	金 額 (円)	備 考
会 報 発 行 費	1,500,000			印刷・発送
総 会	279,333	講 演 料	33,333	
		総会支給交通費	86,000	
		懇 親 会	150,000	
		通 信 ・ 印 刷 費	10,000	
卒業50周年祝賀会	200,000			
卒 業 祝 賀 会	200,000			
役 員 報 酬	132,000		132,000	11名
支 部 支 援 金	230,000	関 東 支 部	120,000	平成19、20年度分
		関 西 支 部	50,000	平成20年度分
		遠 州 会	30,000	平成19、20年度分
名 簿 管 理	50,000			
アルバイト代	250,000			事務補助
郵便振替手数料	50,000			
そ の 他 諸 費 用	100,000	旅 費	50,000	
		そ の 他 事 務 経 費	50,000	
余 剰 金	25,121,807			
合 計	28,113,140			

名古屋大学農学部同窓会関西支部便り

関東支部長 加藤 壽郎(昭45農M)

平成20年度の名古屋大学農学部同窓会関西支部総会を、11月15日に開催いたしました。今年で第四回の総会となります。関西の二府四県には、約800名の同窓生がおられますので、少しでも同窓会の輪を拡げようと頑張っております。今年は、20名の方にご参加いただきましたが、うち、初参加の方が7名いらっしゃいました。初めて参加された方もすぐに打ち解け、昨年同様、和気あいあいとした楽しい会となりました。

総会議事が終わったあと、今年も、2名の方にご講演をお願いしました。まず、中井昭彦さん(昭30農)に「ランの話」をしていただきました。中井さんは永年にわたってランの愛好家として栽培やその技術指導に取り組んでこられ、深い識見をご披露いただきました。現在も9坪の温室でランの栽培を続けておられ、草津市で地域のラン栽培指導者として活躍されています。カトレアから始まり、シンビジウム、デンドロビウム、胡蝶蘭と次々と美しい花の写真をを見せていただき、また、それぞれの栽培上の留意点などをお聞かせいただき、同窓生の中には、自分も始めてみたいとおっしゃっておられる方もいました。

続いて、龍谷大学で教鞭をとっておられる宮浦富保さん(昭61林D)から、「里山から学ぶ」というタイトルでお話をいただきました。近年失われつつある里山ですが、里山が人々の生活を支え、また、人々が里山に手を入れることで豊かな生物層が育まれてきたことを、わかりやすくお話いただきました。江戸時代には、山に生える木々の枝を、春、芽生える頃に、土壌に鋤き込み作物の養分として利用していたようで、山の風景も現在とは随分異なっていたというお話や、松の木から松脂をとって灯明として利用するため、松が根っこから掘り起こされ、山が荒廃し、土砂が流れ出して大きな社会問題となったことにも触れられ、大変興味深く聞かせていただきました。

お二人のご講演の後、今回は特別に伊藤高明さん(昭48農M)に、マラリア防除用として普及が進んでいる特殊な蚊帳(殺虫剤を練りこんだ蚊帳、商品名：オリセットネット)の近況についてお話をいただきました。伊藤さんには第一回の総会の時に、このテーマでご講



演いただきましたが、その後、この蚊帳が世界的な話題となり、伊藤さんも数々の受賞をされておりますので、その後のお話を伺ったわけです。オリセットネットによるマラリア防除はWHOに推奨され、国際的に莫大な基金が集まり、ここ数年でオリセットネットの普及が急速に進んだようです。国連でも取り上げられるほどの大きなプロジェクトになって、アフリカの子供たちをマラリア感染から守っているとのことで、伊藤さんのご活躍を私たち同窓生といたしましても大変嬉しく思っております。

ご講演のあと、例年通り立食パーティーとなりましたが、食事をしながら、また、お酒を酌み交わしながら、懇親を深めました。例年、参加者全員に演台に立っていただき、近況をお話いただきますが、楽しいお話を聞いているうちに、あっという間に時間が来てしまいます。来年もまた開きましょと、来年の再会を約束して、お開きとなりました。

平成21年は、11月14日(土)開催と決まりました。

今回は、宮浦先生のご好意により、龍谷大学のお部屋をお借りして開催したいと思っております。来年も奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

名大遠州会だより

遠州会農学部幹事 米屋 武文(食D1980年満了)

名大遠州会は、静岡県西部(大井川以西)に居住または勤務する名古屋大学、大学院若しくはその前進校出身者から構成され、平成8年に設立されました。同窓会を毎年、総会を隔年で開催しています。平成20年は、第7回総会と第13回同窓会を6月7日(土)17時45分にグランドホテル浜松に80名の会員が集い、名古屋から平野名大総長・伊藤全学同窓会代表幹事を来賓にお迎えして開催しました。

総会では、乾会長の挨拶に続き、平成18年・19年の事業報告、会計報告、役員改選について審議し、来賓のスピーチをいただきました。引き続いての同窓会は、大久保名誉会長の乾杯の発声で、卒業年代の近いグループ毎に指定された10卓の円テーブルを囲みシャンパンのグラスを傾け酒宴に入りました。各テーブルには空席も用意し、テーブルを移動し世代と学部を越えた広い交流を促しました。来賓の平野総長には各テ



ブルを廻っていただき、歓談したり記念写真にも気軽に入っていました。アトラクションは、南方副会長（元浜松医大教授）の紹介で、浜松医大オーケストラメンバーによるモーツァルト弦楽四重奏曲の演奏が披露されました。最後は、庄田副会長の挨拶と一本締めで20時45分に閉会しました。

さて、本年は第14回同窓会をオークラクトシティホテル浜松にて6月13日（土）18:00に開催予定です。アトラクションには地元若手によるエレクロン演奏

を予定しております。

各会員には5月初旬頃に案内状を郵送しますので、奮っての御参加をお願いいたします。

連絡先：遠州会農学部幹事 米屋武文

〒430-8533浜松市中区中央2丁目1-1

静岡文化芸術大学文化政策学部

Tel/Fax：053-457-6174

Email：yoneya@suac.ac.jp

「鈴木国夫シンポジウム」によせて

科学技術振興機構 JST 長谷部プロジェクト技術参事 服部 宏之（農1966年卒）

2008年9月26日（金）10:00から東大（本郷）弥生講堂・一条ホールに於いて、“Suzuki Kunio Symposium”が開催され、山本尚先生（シカゴ大）の“Opening Remarks”で、鈴木国夫氏のこれ迄の功績と、このシンポジウムが開催されるに至った経緯が報告され、感謝の言葉が述べられた。

言うまでもなく、鈴木国夫氏（農芸化学科41年卒、43年修士修了）は、名大農学部の前同窓会長であり、名大農学部の、強いては名古屋大学の活性化を図るべく、重責をお引き受けになり奔走してきた。

しかし、他方で、彼は、一企業人（万有製薬）として、大学と企業の産学連携という名の下で、ここ20年の長期に亘り、北は北海道大学から、東北大、東大、名大、九州大等の大学に於いて、万有シンポジウムを開催し、特に有機化学分野に於ける基礎研究の発展に大いに貢献し、併せて若手研究者の育成に尽力してきた。一企業がここ迄大学の研究活動をバックアップしてきたことも希有であろうが、ここでの鈴木国夫氏の利害を超えたあつい努力によって支えられ、維持されてきたことが大きく影響していることはいうまでもなく、このことが化学者をして、鈴木氏の名前を冠したシンポジウムの開催に至ったことは自明であろう。

演者も鈴木さんと関わった、現在の日本と世界の有機化学を代表する方ばかりで、前述したシカゴ大の山本尚先生はじめ、東大の柴崎正勝先生、分子研の魚住泰広先生、アメリカのスタンフォード大のJustin DuBois先生、スイスETHのAntonio Togni先生のご講演があった。私の専門外の分野であり、講演の詳細な内容は省略するが、300名程入る会場は立錫の余地もない程の満席で、多くの関係者が馳せ参じ、若い研究者が多いことも特徴であった。

私と鈴木さんは、教養部時代からの友人で、大学時代から今日迄、途中会ったり離れたりの永い付き合いが続いているが、私が一度リタイヤーして、3年前に再就職をしたここ数年は、私が東京に出張したり、彼がこちらの方面の出張のついでに岡崎に立ち寄り、リタイヤー後の身の振り方や、子どもの問題、親の介護

の問題等で、話し合う機会が多くなった。特に私が手慰みで、絵を習い始めた話になり、彼はおおいに興味を示し、自分も始めて見たいと言いつつ見せてくれたが、余りの巧さに唖然としたことを記憶している。この才能は、数ヶ月で身に付けたというより、彼の天性として眠っていた画才が目覚めたといった方が適切であるかもしれない。どの絵も構図といい、スケッチ力といい、彩色技術といい、バランスのとれた作品で、見るものを圧倒する。一度我が家に立ち寄った際に、同じく絵を学び始めた我が妻は、すっかり鈴木さんの絵のファンになった。

その鈴木氏から、今回の彼の名を冠した「鈴木国夫シンポジウム」開催のはなしを聞いたのは、たしか今年の春だった気がする。こんな大それたシンポジウムが山本先生、柴崎先生から、提案され、最終的には、会社もバックアップして下さることとなり、彼にとっては、これ迄の努力が認められ、苦勞が報われたと大変喜んではいったが、一体どんなシンポジウムになり、どう対処して良いのか不安の気持ちを明かしてくれた。その一つに、参加して下さる方々に、どのようなお礼の気持ちを示したらよいか悩んでいた。私はふと、鈴木さんの素敵なスケッチ集を思い出し、あの中の数点の絵をハガキにして皆さんに記念品としてお配りしたらいかがだろうか、と提案した。鈴木さんは、勿論初めは、自分としては拙い恥ずかしい絵だからと、固辞したが、私は、鈴木さんのリタイヤー後の新たな一面を紹介することも兼ね、その才能に対して羨望の気持ちを持っているものとして、あの絵を見れば、皆さんが鈴木さんに対するイメージをリニューアルするいい機会だと、強く勧めた。

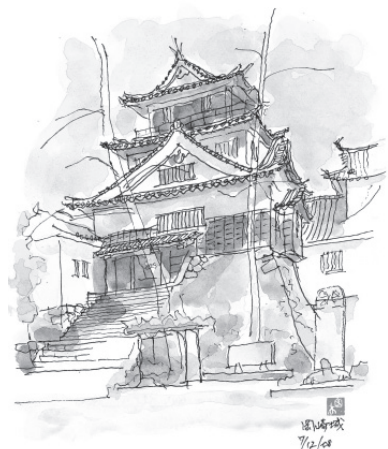
その後、鈴木さんは、それに変わるアイデアもなかったようで、結局は、その方針で動いていることの報告があった。今年の7月中旬の土曜日、鈴木さんから、分子研の魚住教授の所に伺う予定が出来たので、岡崎に来るとの連絡を受け、懐かしい岡崎城の前で11時頃待ち合わせた。私が到着した頃は、鈴木さんは、岡崎城を懸命にスケッチしている最中で、私はそっと彼の

後ろに忍び寄り、彼のスケッチ風景と作品を観察できた。その後、彼は、全国のこれまでシンポジウムが開催された場所を巡り、周辺の関係の建物のスケッチを描きためているとのことであった。

シンポジウム当日は、鈴木さんとは名古屋大学時代の共通の友人でOBでもあり、この年の3月に東京農工大学教授を定年退官し、千葉県の南房総市に居を構えて移り住んだ安部浩さんと、合流しお祝いを兼ねて共に参加した。鈴木さんの名古屋大学時代の恩師の並木満夫名誉教授もお元気な姿で馳せ参じた。

シンポジウムは、最後迄熱気に満ちた講演と活発な質疑が行われ、盛況のうちに、惜みない大きな拍手に送られて幕を閉じた。鈴木国夫氏のこれ迄の功績をたたえるにふさわしい素晴らしい講演であった。そしてその後に開催された懇親会には、ノーベル賞を受賞された野依良治先生も駆けつけ参加された。

また申し添えると、当日の講演プログラムの装丁は、表紙は鈴木国夫シンポジウムを開催した大学の所在地を日本地図上にマークし描かれたポンチ絵で、各ページは、演者のプロフィールの傍らに、彼の描きためてきた、岡崎城を始め、東大赤門、札幌厚生年金会館、旧北海道庁、仙台国際センター、東北大資料館、九大旧正門そして、名古屋城、野依記念学術交流館、豊田講堂の他に、夏水仙、唐辛子のスケッチ絵が描き添えられ、これもまた鈴木氏の人柄を忍ばせる、味わい深い作品であった。



終了後の懇親会での様子で、右から、山本先生（シカゴ大）、柴崎先生（東大）、鈴木国夫氏、奥様、野依先生の順です

このような我が農学部前同窓会長である鈴木国夫氏の偉業は、我々OBの一員として特筆されるものであり、心から敬意を表し、皆さんにご紹介する次第である。

農学科卒業40年記念誌を発行しました！

岩井 浩（農1967年卒）

名古屋大学農学部を昭和42年に卒業して40年が経ちました。私達農学科のクラスは19人であったことから、卒業後も「19の会」とグループ名をつけて活動を続けてきました。実際には不幸にして大橋建男氏が他界して18人ですが、卒業後数年は、会報も発行し毎年1回は集まり、それ以後も5年程度に1回は集まり、情報交換とか懇親会で絆を強くしてきました。

還暦を迎える頃からは、現役職場の一線を退き余裕のできたこともあり、毎年8月のお盆には集まろうということで今年まで5年続いています。

そして昨年の出席者から記念誌を創ろうとの声が出て編集が始まり、発行に至ったところです。

19の会のメンバーは、旧研究室名で〔園芸〕石川、〔農経〕大橋・岡本・長谷川・私、〔害虫〕大羽・積木・宮木、〔植物病理〕勝野・杉浦・本田、〔栽培〕渡辺、〔作物〕赤堀、〔養蚕〕関ら（出席の多い者）です。

記念誌は、A四判カラー印刷50ページ程度ですが、内容は卒業後40年を振り返ってとか自分史、サラリーマン生活での苦労話、失敗談、文芸（幼年時代）、法人化後の国立大学が抱える問題、研究機関での研究の成果、近況報告と様々です。学生中の写真、寄せ書き、19の会活動記録、集まりの写真なども満載しました。

自費出版で経費は3万円程度ですが、原稿提出の催促、パソコンでの印刷、編集企画など委員としては苦労もありましたが、満足する記念誌となりました。（目次のみ添付いたします。）

また70歳の時点か卒業50周年記念として創ろうということになりました。

他の学年の方も記念誌を創ろうという方には、スペアが数冊ありますし、農学部同窓会事務局にも送付していますので参考としていただければ幸いです。



名古屋大学全学同窓会ニュース

1. 大学支援事業について

全学同窓会の活動の一つである大学支援事業についてご紹介いたします。この事業は大学支援事業運用要項に基づき、全学同窓会の活動理念に添った諸活動を支援するもので、四つの助成対象事業があります。それは①学生生活活動支援、②就職支援、③本部・部局行事等支援、④その他支援、です。事業の募集は年2回あり、助成金額は1件当たり50万円以内で、全学同窓会選考委員会で応募書類などにより選考、決定されます。応募件数は年度により異なりますが、毎回2～4件程度が採択されます。平成20年度第1回の募集で採択された4件は、ホームカミングデイの来客案内ボランティアの法被作成補助、混声合唱団等の日仏交流事業イベ

ント参加のための渡航費用補助、混声合唱団定期演奏会開催補助、こすもす保育園の子供図書コーナーの設置とお話会開催補助でした。

2. 名古屋大学カードについて

全学同窓会の財政基盤整備と大学支援を強化するため、三菱UFJニコスと提携して「名古屋大学カード」を発行しております。買い物などでカードが利用されると、その金額の一部が全学同窓会に還元されることになっております。還元金は前述の全学同窓会の大学支援事業などに利用され、教育研究活動の活性化に資することになります。名古屋大学カードの表面には豊田講堂がデザインされています。カードの入会方法、特典などの詳細については名古屋大学全学同窓会のホームページ (<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>) をご覧いただくか、全学同窓会(電話052-783-1920)にお問い合わせください。



農学部の話題 —2007.12.16～2008.12.15—

(「名大トピックス」より許可を得て農学部関係の一部を記載)

- 「海上の自然とシデコブシ」シンポジウム16日開催：戸丸信弘・生命農学研究科教授 07.12.17中日(朝刊)
 松林嘉克・生命農学研究科准教授らのグループが、植物の茎の先端にある分裂組織の形成機構を解明
 1.18中日(朝刊) 1.28日刊工業 朝日(朝刊)
- 川北一人・生命農学研究科教授らと愛知県の高校理科教師らが、「理科・大学連携 学習交流会」と銘打ち自主的
 学習を開始 1.21中日(朝刊)
- 「牛乳市民講座」3月8日開催：松田幹・生命農学研究科教授 2.6中日(朝刊)
- 愛知学院大学寄付講座「口腔先天異常遺伝学・言語学講座」第7回講演会「抗酸化食品と疾病予防」3月8日開催：
 大澤俊彦・生命農学研究科教授 2.29中日(朝刊)
- 第3回スーパーレクチャー「人体・生命の不思議」13日開催：近藤孝男・理学研究科教授 「K a i C蛋白質が刻
 むシアノバクテリアの1日」、吉村崇・生命農学研究科准教授 「動物が季節を読み取る仕組みを探る」、松本邦弘・
 理学研究科教授 「生命現象とシグナル伝達：モデル動物からのアプローチ」、貝淵弘三・医学系研究科教授 「動
 脈硬化のしくみをさぐる」 3.4中日(朝刊)
- 福島和彦・生命農学研究科教授らの研究グループが、古代の木造建築に使われている建材の伐採年代を測定する技
 術を開発 3.15中日(朝刊) 他2社
- 吉村崇・生命農学研究科准教授らのグループが、脊椎動物の甲状腺刺激ホルモンが春の訪れを告げ、繁殖などの行
 動を促すことを解明 3.20中日(朝刊) 他4社 3.24日刊工業
- 牛乳市民講座 牛乳と健康～ミルクの価値をもう一度考えよう～8日開催：松田幹・生命農学研究科教授
 3.29中日(朝刊)
- 小田裕昭・生命農学研究科准教授らは、不規則な脂っこい食事を続けると肝臓の「体内時計」が異常となり、同じ
 食事内容で規則正しく取った場合に比べ、血中コレステロール濃度が大幅に上がる可能性が高いことを、ラットの
 実験で確認 4.6日経(朝刊)
- 春の褒章：「紫綬」磯部稔・本学名誉教授 4.28朝日(朝刊) 他5社
- 春の叙勲：瑞宝中綬章 鶴高重三、江藤恭二、鬼頭幸生・本学名誉教授、瑞宝単光章 手塚昶子・元医学部附属病
 院看護部看護師長 4.29中日(朝刊) 他4社
- 日本植物生理学会(会長・中村研三・生命農学研究科教授)企画・監修の「植物まるかじり叢書」全5巻完結
 5.2朝日(朝刊)
- 吉岡博文・生命農学研究科准教授の研究グループが、植物の免疫反応をつかさどるたんぱく質を特定
 5.31中日(朝刊) 毎日(朝刊)

- 吉岡博文・生命農学研究科准教授の研究グループが、植物の免疫反応をつかさどるたんぱく質を特定
6.2日刊工業
- 吉田重方・本学名誉教授が、平成20年度環境保全労働者等の「地域環境保全功労者」に表彰される
6.6読売
- 木曾三川公園「東海広場」に「セアカゴケグモ」が大量発生 田中利治・生命農学研究科教授は、「温暖化の影響で越冬できる気候になっている可能性もあり、完全に駆除することは難しい。不用意に触らないよう注意が必要」と話す
6.6中日（朝刊）
- 吉田重方・本学名誉教授が、境川のデータを10年さかのぼって調べ直し、「境川健康診断 - 東郷町域」という報告書をまとめる
6.12朝日（朝刊）
- 食ショック：売れ残った弁当やおにぎりなどを豚などの飼料に再加工する取り組みについて、富田武・本学名誉教授は「飼料の原料に豚肉が含まれていたとしても、豚がそれを食べて遺伝的に影響を受けることはない」と話す
7.5読売
- 名大サロンの主役：大澤俊彦・生命農学研究科教授 抗酸化物質 健康に生かす
7.22中日（朝刊）
- 天白区平針に残る「里山」で大規模な宅地開発計画が浮上 地元自治会と「平針の里山を守る会」（代表・宗宮弘明・生命農学研究科教授）が勉強会を開く
8.28中日（朝刊）
- 竹谷裕之・生命農学研究科教授は汚染された事故米の不正転売について、「売却先を最終需要者に限定し、抜き打ちで立ち入り調査をするような対策が必要」と指摘する。また吉田佳督・医学系研究科准教授は、「食材の原産地表示などの情報開示を求めていく必要がある」と話す
9.12中日（夕刊）
- 牛乳市民講座10月25日開催：松田幹・生命農学研究科教授 「生物学の視点から：食物としての母乳と牛乳」
9.27中日（朝刊）
- 日本ゴマ科学会会長・大澤俊彦・生命農学研究科教授に、ゴマの魅力を聞く
9.30朝日（朝刊）
- 平針南学区連合自治会と「平針の里山を守る会」（代表・宗宮弘明・生命農学研究科教授）が、里山保全に指導力を発揮することを求める要望書を名古屋市に提出
10.8中日（朝刊）
- 秋の園遊会に鶴高重三・本学名誉教授らが招待される
10.9中日（朝刊）
- 吉村崇・生命農学研究科教授らの研究グループは、体内で分泌されるホルモンの変化によって、人間を含む哺乳類が季節の変化を感じ取る仕組みを解明
11.18朝日（夕刊）他2社 11.19日刊工業
- 本学は農学部・生命農学研究科附属の農場、演習林、山地畜産実験実習施設を統合し、来年4月から「フィールド科学教育研究センター」とする 平野眞一総長は「一本化することで、より実践的な教育や人材育成ができる」と話す
11.26中日（朝刊）
- 第22回中日産業技術賞の受賞技術・製品が決まる 選考委員は平野眞一総長、専門委員は内山晋・本学名誉教授、岡本佳男・同名誉教授、垣沼淳司・元農学研究科教授、河本邦仁・工学研究科教授らが務める
12.2中日（朝刊）
- 第8回遺伝子実験施設公開セミナー「新たなDNA解析 - 次世代DNA解析のすべてとDNA解析の新分野への展開 -」16、17日開催：木村真人・生命農学研究科教授、小内清・遺伝子実験施設研究員、松尾拓哉・同研究員らが最新研究を紹介
12.13（土）中日（朝刊）

同窓会寄付者一覧

本年度、農学部同窓会に対し以下の方々より寄付金をいただきました。ありがとうございました。
また、一部の方々は昨年度寄付金をいただいたにも関わらず、ご報告漏れのあった方々も含みます。

ここにお詫び申し上げるとともに、ご報告申し上げます。

(敬称略)

相羽 孝亮	浅井 武重	雨木 若慶	雨木(渡辺) 郁子
飯島 憲二	池田 直希	石河 正則	石原 紋子
伊藤 勇弥	井上 貢	今井 正樹	岩井(寺本) 浩
岩坂 昌樹	内田 惇貴	生川 延平	太田 伸輔
大橋 偉郎	大橋(伊東) 昭典	大村 寛	大村 百合
大元 英司	尾崎 士郎	加藤 清之	加藤 猛雄
金田 和子	加納 実	川島 直通	川本 英里
鬼頭 正宣	栗本 重夫	佐藤 一精	佐藤 安久
佐原 剛	澤木 良次	品川 哲郎	柴田 一憲
志水 俊夫	JOHN ROSS GATHRIGHT		菅原 知宏
須田(岡田) 扶佐子		高尾(太田) 真砂子	高橋 壯
竹内 敏彦	舘本 勲武	田中 毅	築山 孝弘
築山(鈴木) 葉子	中川 慶太	長谷(太田) 泰弘	並河 鷹夫
成瀬 和也	西村 弘行	野田 翔太	長谷川 洋吉
長谷川 令子	原 睦美	原 由香里	飛田 恭平
平野 純吉	平野 道弘	平林 良一	福本 英人
藤井 治男	古川 壽久	古田 隆則	細井(井上) 力
本田 富義	松浦 純生	松崎 敦志	松本(寺島) 正
水野 薫	八代 勝美	山下 かなへ	山田 信彦
横山(赤木) 彰男	吉田(松本) 康		

事務局だより

平成21年度 8月に農学部同窓会名簿の発行を予定しています。皆様には名簿データ確認調査にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。ご不明な点やご意見などありましたら、同窓会までご連絡ください。

平成20年度中に会員の皆様からお寄せいただいたニュースを同窓会ホームページに掲載させていただきました。今後も会員の皆様からのご質問・ご要望にお答えしていきたいと考えております。ご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。

農学部同窓会事務局では、広告の募集をしています。本会報の発行部数は、現在約7,300部で、本学農学部関係者に配布されています。会社の広告、同窓会の通知などにご利用下さい。

詳しくは、同窓会事務局まで。

理化学器械・研究設備・光学機器・ガラス器具

主要取扱メーカー

久保田製作所	トミー精工
東京理化	タイテック
マリソル	日本エイド
佐久間製作所	岩城硝子
三洋メディカ	アトバンテック
三立科学	アトー



株式会社 みずほ理化

〒468-0066 名古屋市天白区元八事 1丁目33番地
TEL 052-831-8800
FAX 052-834-4117

理科研は「バイオ研究」に欠かすことのできない

試薬・機器の販売を通じ

人類の幸せと豊かな社会の実現を願っています



<http://www.rikaken.co.jp>

- 本社 名古屋市守山区元郷二丁目107番地
〒463-8528 TEL 052-798-6151(代) FAX 052-798-6157
- 岡崎営業所 愛知県岡崎市明大寺町字西長峰50番
〒444-0864 TEL 0564-57-1751(代) FAX 0564-57-1757
- 岐阜営業所 岐阜県岐阜市岩地2丁目25番2号
〒500-8225 TEL 058-240-0721(代) FAX 058-240-1082
- 津営業所 三重県津市丸之内養正町20番地14号
〒514-0036 TEL 059-224-6661(代) FAX 059-224-6671
- 四日市営業所 三重県四日市市桜町2129番の1
〒512-1211 TEL 059-326-0231(代) FAX 059-326-3577
- 静岡営業所 静岡県駿河区広野3丁目29番8号
〒421-0121 TEL 054-256-3751(代) FAX 054-256-3755

研究設備・分析機器・光学機器・分析器具

主要特約代理店

オリンパス	三洋電機
ヤマト科学	GEヘルスケア バイオサイエンス
トミー精工	アプライドバイオシステムズ
旭硝子	アズワン

合資会社 木下理化

〒466-0035
名古屋市昭和区松風町 1丁目32番地の3
TEL (052) 859-2132
FAX (052) 859-2136

永坂カメラ

名古屋市瑞穂区八勝通 2丁目 1-1

TEL 052-832-6539

コミュニケーションの進化に対応する



株式会社 KWIX
URL <http://www.kwix.co.jp/>

印刷を核に情報産業を担う企業として、
新時代のコミュニケーションの輪を
拡げています。

- 本社 〒448-0025 愛知県刈谷市幸町2-2
TEL (0566) 24-5511 / FAX (0566) 26-0200
- 名古屋本部 〒456-0004 名古屋市熱田区桜田町19-20
TEL (052) 871-9190 / FAX (052) 889-1410